

## 研究・調査報告書

分類番号		報告書番号	担当
A-141	A-169	20-410	手稲溪仁会病院 白坂知彦 独立行政法人国立病院機久里浜医療センター 松下幸生
<b>題名 (原題/訳)</b>			
Alcohol Use Disorder and Risk of Suicide in a Swedish Population-Based Cohort スウェーデンの人口ベースのコホートにおけるアルコール使用障害と自殺のリスク			
<b>執筆者</b>			
Edwards AC, Ohlsson H, Sundquist J, Sundquist K, Kendler KS.			
<b>掲載誌</b>			
Am J Psychiatry. 2020 Jul 1;177(7):627-634. doi: 10.1176/appi.ajp.2019.19070673. Epub 2020 Mar 12.			
<b>キーワード</b>			<b>PMID</b>
アルコール使用障害、併存症、精神疾患、レジストリ、自殺			32660296
<b>要 旨</b>			
<p><b>目的：</b>著者らは、精神医学的併存症を説明する前後に、アルコール使用障害（AUD）と自殺のリスクとの関連を調べた。この観察研究により、遺伝的および家族的環境交絡因子関連が潜在的な因果メカニズムであり、両者のリスクが上昇すると評価した。</p> <p><b>方法：</b>縦断的な人口全体のスウェーデンの医療、犯罪、および薬局のレジストリを使用して、AUDの治療歴のある自殺について、死亡のリスクを評価した。分析では、1950年から1970年の間に生まれ、15歳から2012年まで観察された2,229,880人のネイティブスウェーデン人に関するデータを含む、前向きコホートおよび相互相対的デザインを採用した。</p> <p><b>結果：</b>観察期間中の自殺の生涯率は、AUDのない女性と男性のそれぞれ0.29%と0.76%と比較して、AUDのある女性で3.54%、男性で3.94%であった。調整された分析では、AUDは自殺と強く関連していた。観察期間全体のハザード比は、女性では2.61から128.0、男性では2.44から28.0の範囲であった。相互相対分析は、家族の交絡が観察された関連のすべてではないがいくつかを説明したことを示した。他の精神医学的診断の病歴を考慮した後も、実質的に潜在的な因果関係が残っていた。</p> <p><b>結論：</b>AUDは自殺の強力な危険因子であり、交絡因子を考慮した後も実質的な関連性が持続している。これらの調査結果は、他の精神疾患の状況においても、AUDが自殺リスクに与える影響を強調し、医療または犯罪後のAUD診断直後の期間がアルコール関連の自殺を減らすための取り組みにとって重要な時期であることを示している。</p>			